

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2023年2月17日

Amazon plans “Go Big” for real store vs Walmart closes some stores
Amazon は実店舗の事業拡大を計画し、Walmart は数店舗をクローズ予定



18000人以上を解雇すると述べ、実店舗の出店計画にブレーキをかけたAmazonですが、実店舗の事業拡大計画を公に発表しました。



2016年12月に本社ビルでレジ無し店舗 Amazon Go を同社社員対象にして一年間実験的にスタートし、2017年6月には Whole Foods を137億ドルで買収しました。

2020年の秋からは直営で経営する食料品店 Amazon Fresh Grocery の展開を始めていますが、未だに食料品市場の全体を支配するには至っておりません。

現時点で Amazon 実店舗部門は、事業全体の3.4%で Whole Foods 買収以来から比べてもその成長率は約10%です。



同社の CEO アンディ・ジャシー氏は「私たちはまだ初期の段階です。」とフィナンシャル・タイムズに語り、続けて「2023年度内に物理的な面で大きく展開したいフォーマットが出来ると期待しています。なぜなら、私たちは数多くの実験を行い、且つスピーディに実行してきた過去があります。私たちが気に入った形を見つけたらそれを倍増させます。それが Amazon の意図するところです。」と付け加えました。

理由としては、世界的なパンデミック時に直面した困難時にも食料品は巨大な市場セグメントであり、戦略的な分野であると Amazon は考えたからです。

いずれ食料品を取り巻く環境は、オムニチャネルになるとも考えています。また、Amazon Fresh のデジタル事業を調整し、食料品配送の新価格体系を導入しようと試みております。

一方、Amazon Fresh Market の出店を延期中でも Whole Foods Market は新規出店を続け、2023 年がスタートして僅か数が月で既にニューヨークとモンタナ州ボーズマンに新店舗をオープンしています。



Amazon は食料品をオンラインで購入したいという顧客のニーズに応えるために、市場に投資し、既存のインフラ、テクノロジーと宅配能力を活用し、お客様により便利で費用対効果の高いソリューションを提供しています。

さらに同社は消費者のニーズを満たすため食料品の提供を継続的に革新し、拡大も行っております。

同時期、全米最大の小売業チェーンWalmart がイリノイ州、ウィスコンシン州、ニューメキシコ州、フロリダ州の 4 州で 5 店舗を閉鎖することを発表しました。

今回の閉鎖の理由ですが、同社が毎年様々な州で一握りの店舗を閉鎖する傾向があり、具体的な内容は示さず『業績不振』だと述べています。

イリノイ州とアーカンソー州にある 2 つのダークストアも 9 年間にわたるピックアップ専用店舗の実験が終了したので閉鎖することを決定したとのこと。

と言う訳で相変わらず動きの激しい米國小売業です。

話は少しそれますが、その後、卵の価格は安定してきたものの今度はガソリン代が高騰し、特に私の住むカリフォルニア州では 17 日間連続で値上がりが続いております。

その要因は先週にロシアが EU 制裁への報復として日量 50 万バレルのサプライズ減産を発表し、原油価格を押し上げたために相場が上昇したのだと言われております。

現在この値上がりが食品価格にどれだけ影響してくるのか悩める主婦にとっては頭痛の種なのですが、その中でちょっとだけラッキーなこともありました。

なんと今、西海岸では天然ダンジネスクラブが沢山水揚げされており、コストコでは写真の大きなカニが何と 2 杯で \$15 と破格の値段で販売されています。

私も勿論、早速ダッシュで購入し、オリーブオイルと庭で適当に生えているハーブを摘み、沢山のニンニクと一緒に焼き付けました。

蟹の甲羅をはがし、唐辛子で少しだけ辛く味付けしたペペロンチーネパスタをぐるぐると蟹味噌に和えて頂くと天にも昇る美味しさでした。

おかげさまで蟹を堪能した束の間だけ、暫し頭痛が和らいだ気が致しました。

